

---

# 晴れ時々ミステリーサークル

紀織繭璃

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

晴れ時々ミステリーサークル

### 【Nコード】

N4361I

### 【作者名】

紀織繭璃

### 【あらすじ】

男子校に通っている森之宮潮が、授業をサボって自動販売機へ向かうと、そこには、空き缶でミステリーサークル(的な物)を作る、藤塚菜月に出会う。

屋上で地上絵(的な物)を書いたり、校庭に魔方陣(的な物)を書いたりする菜月に、潮は「お前は何者だ」と問う。すると菜月は、「僕は宇宙人なんだ、あははははは」と答えて…!?

強面男子高生×謎の自称宇宙人が繰り広げる、脱力系青春ストーリー！。

## プロローグ・俺ノニチジヨウ

「行つてきまゝす…」

俺は、台所で食事をのんびりと取っている両親に力なく呼びかけて、愛用のスニーカー（メチャメチャ高かった）を履き、玄関のドアを開ける。遠くの方でお袋が「行つてらっしゃい」といつているのを確認し、俺は外へと一歩、また一歩と踏み出す。

…いつもと変わらない、朝のニコマ。

空には雲一つと無く、真つ青だ。だというのに、吹き抜けていく風は、体中刺さる様に痛い。吐く息はもう既に白くなってどこかへと消えていく。朝食をとりながらなんとなく見ていた朝のニュース番組でやっていた天気予報では『今日は気持ちの良い空が広がり、陽気も昨日よりは良くなるでしょう』なんて言つて微笑んでたけどさあー、昨日の方が暖かったよ？全然。

「さあむ…」

当てにならない天気予報はもう脳内から消し去ろう。……………（処理中）…………… よっし、完了。

そんなバカなことを考えながら見慣れた通学路を歩いていると、不意に後ろから声がかかった。

「そこのおにいさん！危ないよおおお！」

振り返ると、そこには前髪を上げ、学ランの下にYシャツ、その下に深緑のTシャツを着て、自転車を走らせてこちらへ迫ってくる、親友の姿があった。

親友は、とびっきりの笑顔でこちらへやってくるが、親友が乗っている自転車は、どんどん俺に近づいているというのに勢いは衰える気配すらない。このままだと…正面衝突ツ！！

「流星！！おまツ、チャリ止めるおおおおお！！！！」

キイイイイイイイイイイイイイイイイイ…

とっさに迫りくる自転車を叫びながらよけた俺は、息を切らしなが



## プロローグ・俺ノニチジヨウ 2

「ったく、毎日毎日、俺はお前のせいで命の危機だッ！…聞いてんのか、流星<sup>せいせい</sup>！…！」

「…え？あ、うん、聞いてる聞いてる…ガリツガリツ君の当たり棒についての話だよな？」

「聞けよ、俺の話ッッッ！！！！！！！」

自転車置き場に愛用のママチャリをおきながら、クソ寒い空の下で、親友は朝っぱらからガリツガリツ君なるソーダ味のアイスをほおばっていた。

「やっぱりアイスはうめーよ。このクソ寒い時期に食べるって言うのがこりやまた通のた・べ・か・た！」

「いい加減クルクル回りながら俺に語るのやめてくれる？」

バレエダンサーのように学ランを着た男子学生がクルクルと回って玄関へ向かうというなんとも奇妙な光景を横目に、俺はずかずかとズボンのポケットに寒さで細かい動きができなくなった手を突っ込んで、親友と同じ場所へ向かっていると。

「おーっす、潮、流星ー」

「うーくんりゅーちゃんおっはよー」

「…はよ」

後ろから個性豊かな仲間たちが声をかけてきた。

「ちーっす、緑<sup>みどり</sup>、亮太<sup>りょうた</sup>、和真<sup>かずま</sup>…。とりあえずあいつを止めてくれ」

とりあえず俺は、絶賛回転中の親友を止めてもらおうとSOSを出してみた。…あいつを止めるのは一人じゃ無理だ。…昨日なんかは花壇に止めに入った俺も一緒に突っ込んで、生徒指導の前木に説教されたばかりだ。（もちろん、『バレエダンサーを志してクルクル回っていた』と言い訳したところ、さらに怒られ、説教の時間が10分延長になった。）

「…いやいや、やめといた方がいい…と、俺は思いますー、マル」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4361i/>

---

晴れ時々ミステリーサークル

2010年10月10日03時29分発行